

配偶者・パートナー間暴力予防のための教育プログラムの開発

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-09-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長谷川, 美香 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/4100

福井大学研究シーズデータ

名前・学部・学科等	長谷川美香・医学部・看護学科				
研究情報の分類	シーズ	特許	新製品	分析/解析	調査
研究分野の分類	15	以下の18項目から一つ選び番号を左欄に記入する。 1.物理系 2.エネルギー系 3.化学系 4.バイオ系 5.環境系 6.海洋・宇宙系 7.交通系 8.機械系 9.材料系 10.電子・電気系 11.情報系 12.建築・建設系 13.医学系 14.健康・保険系 15.看護・福祉系 16.農業・林業系 17.水産・畜産系 18.その他			
重点研究分野への該当	I T	ナノ	バイオ	環境・エネルギー	その他
キーワード(5個以内)	ドメスティック・バイオレンス	予防	教育プログラム		
研究情報の名称	配偶者・パートナー間暴力予防のための教育プログラムの開発				
概要	<p>2002年に研究者が実施した、福井県A市の住民基本台帳に登録されている20-69歳の男女を無作為抽出した配偶者・パートナー間暴力の調査において、配偶者から暴力を受けた・行った体験の有る者は無い者より、いずれもその行為を暴力だと思う者が有意に少ないという結果を得ました。このことから、暴力に関する認識を高めることは、潜在化している暴力を顕在化させ、さらに、暴力を行うことも、また受けることも低下させると考えます。</p> <p>そこで、現在、青年期にある人々の暴力に関する認識と態度を高めるための暴力予防教育プログラムの開発に取り組んでいます。</p>				
青年期を対象とした理由	<ul style="list-style-type: none"> ・恋人とデートを始める時期 ・デート関係での身体的暴力の存在：21～41% ・態度と行動を変容できる時期 				
教育プログラムの目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の人々が、相手の人格を侵害する行為が暴力であると認識することができる ・異性との関係で、問題解決方法として暴力を用いない行動を選択することができる 				
グラフィカルな社会還元までのチャート	<pre> graph TD A[ドメスティック・バイオレンス(DV)被害者の特徴：暴力の被害者であるという自覚が無い] --> C[暴力に関する認識を高める介入] B[20人に1人の女性が、夫から生命の危険を感じる程度の暴行を受けた体験あり] --> C C --> D[暴力予防教育プログラム] E[・青年期を対象 ・相手の人格を侵害する行為を暴力と認識できる ・問題解決方法として暴力を用いない行動を選択できる] --> D D --> F[暴力予防のための具体的方法の提示] D --> G[地域の保健・福祉・教育職等が活用] F --> H[配偶者間暴力の予防] G --> H </pre>				
関連している企業・大学・団体等	NPO 法人福井被害者支援センター、NPO 法人たけふ男女平等推進協会				
関連する特許 1 件	なし				
関連する論文 1 編	配偶者・パートナー間の暴力体験とその関連要因, 福井医科大学大学院修士論文, 2003				